

年間第25主日徳田教会堅信式説教

2017年9月24日

[\[聖書朗読箇所\]](#)

今日、年間第25主日の福音は、ぶどう園で働く労働者の話です。

このミサの中で、堅信式が行われますが、今日の主イエスのみことばが、堅信を受けるかたがたのために、どのような意味を持っているのかということ、ここに集うわたしたち一同で、分かち合いたいと思います。

主イエスの教えは、しばしば、わたしたちにとっても、分かりにくいと感じることが、あるのではないのでしょうか。

今日の、天の国のたとえ話も、そのようなもののひとつであると思います。

天の国、あるいは、神の国は、わたしたち人間の思いを、はるかに超えた世界であり、神様の定められる道は、わたしたち人間が、こうではないかと思う、いわば、常識とは、大変かけ離れたものであるということ、今日のミサの第一朗読、イザヤ書が言っております。

朝早く、世が明けるときから働き始めた人と、夕方5時ごろ、やっと仕事に有り付いて、1時間だけ働いた人がいた。朝9時、12時、3時、それぞれの時刻に雇われた人がいましたが、全員同じ報酬、1デナリオンを受け取った。当然、報酬を受け取った人の間には、分からないとか、変だとかという思いが生じたことでしょう。

わたしたちも、この話を読んで、これは何を言っているのだろうかと思います。

もし、わたしたちが、朝早くから働き始めた人の立場にあるとすると、1時間しか働かなかった人と、同じ報酬しかもらえなかったということに対して、大変不満を感じる。しかし、夕方5時になって、働き始めた人の立場になると、これはありがたい、嬉しいことだと思わないのでしょうか。

考えてみれば、この社会とわたしたちの人生は、このぶどう園のようではないかと思えます。

格差のある社会ということが言われて久しい。わたしたちは、自分の努力で変えることのできない、格差、あるいは、あえて言えば、差別のある社会の中に生まれ、生きなければならない。

かつては、人間、努力をすれば、それなりの成果を得られるという、希望のある時代もあったと思います。

いまの日本の社会では、人々はどのように感じているのでしょうか。

努力しても、努力しても、その実りを味わうことが難しいと感じる人が、多いので

はないかと思います。

さらに、わたしたちは、すでに、この世に生を受けたときから、格差のある状態にあると言っても、良いのではないのでしょうか。

自分の力ではどうにもならないこと、もちろん、自分の意志、自分の決断、努力で変えることができることはたくさんあるし、人生というものは、ひとりひとりが自分で判断し、自分で決断し、努力して築いていくものです。

しかしながら、どうしても、どんなに頑張っても、どうにもならないという現実を、否定することはできません。

それでは、そのようなわたしたちの状態を見て、神様は、どのように思っているのか。そして、あえて言うならば、どのようにしてくださるのか。

ナザレのイエスという人は、そのような問題に対して、鋭い切込みをした人ではないかとも思われます。

こちらに集う、わたしたち、ひとりひとりは、社会の中で、いろいろな関わりを持って生きています。

その関わりというものは、非常に大切であって、それぞれ、その社会、その環境の中で守るべき、あるいは、期待されるべき、習慣、規則、法律などがあります。

利益を追求する会社は、当然、利益を優先しますが、公益を求める、いろいろな団体、公益財団法人、あるいは、社会福祉法人、そのような法人があります。

このような法人が、自分の法人のありかたや、運営について、それぞれ、自分たちの守るべき、基本的な心構えを定めていると思います。

そして、さまざまな必要と、事情の中で、弱い立場に置かれている人々、困っている人々、あるいは、差別されている人々、病気、障がいに悩む人々のために、よかれと思って、わたしたちは努力しています。

このイエスの教えを、どのように受け止め、それぞれの場所で実行したら良いのでしょうか。わたくし自身も、しばしば、いわば、管理的な立場にありますので、悩むところです。

このようなときに、しばしば、思い出す、聖書の言葉を、今日、改めて、紹介したいと思います。

「あなたは存在するものすべてを愛し、
お造りになったものを何一つ嫌われない。
憎んでおられるのなら、造られなかったはずだ。
あなたがお望みにならないのに存続し、
あなたが呼び出されないのに存在するものが

果たしてあるだろうか。

命を愛される主よ、すべてはあなたのもの、
あなたはすべてをいとおしまれる」。

知恵の書からとられた言葉です。（知恵11・24-26）

すべてのもの、特に、わたしたち人間の存在をお望みになり、そして、すべての人を、かけがえのない、大切な存在とされ、いとおしく思ってください、主なる神様がいらっしゃる。

そして、神様は、そのように思うだけではなく、その思いを実現するために、わたしたちの人生を導いてくださっている。そのように、わたしたちは信じます。

そして、お互いに、そのような神様の思いを信じる者同士、互いにゆるし合い、受け入れ合い、助け合って、わたしたちが置かれている、ぶどう園の中で、一緒に働き、神様の愛を、より深く味わい、実行することができるよう、今日、特に、お祈りを献げたい。

堅信を受けられるみなさん、みなさんは、聖霊の賜物、7つの賜物を受け、そして、このような神のいつくしみを、より深く知り、伝え、そして、行うことができるように、励まされます。

どうか、この堅信の恵みを、いつも思い起こし、困難な中でも、神様の、このいつくしみ、そして、ぶどう園で働く労働者の話の中で示されている、神のいつくしみを、忘れずに思い起こし、祈るようにしていただきたいとお願いいたします。

聖書朗読箇所

第一朗読 イザヤ書 55:6-9

主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。

呼び求めよ、近くにいますうちに。

神に逆らう者はその道を離れ

悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。

主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば豊かに赦してくださる。

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり

わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。

天が地を高く超えているように

わたしの道は、あなたたちの道を

わたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている。

第二朗読 フィリピの信徒への手紙 1:20c-24 27a

(皆さん、)生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です。

ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。

福音朗読 マタイによる福音書 20:1-16

(そのとき、イエスは弟子たちにこのたとえを語られた。) 「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにすることは。』主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。 」

[説教へ戻る](#)